

授業コード	科目名	リプロダクティブ・ヘルス支援 Reproductive Health in Midwifery			担当教員	阿部正子、宮里実、深津真弓、 家吉望み、廣瀬紀子、徳永季子
助 108					E-mail	m.abe@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	研 423	月曜日 6 限・木曜日 6 限（teams でも可）	
1. 授業の概要						
本授業は、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（RH/R）の理念に基づき、女性のライフサイクルにおける性と生殖の健康課題について専門的知識を修得するとともに、それらを統合し助産師として実践的に支援できる能力を養う統合演習科目である。 本科目は、実務経験を有する医師、看護師、助産師等による講義と、臨床経験を有する助産師教員による事例検討および模擬指導演習により実施する。多職種の実践知を踏まえ、医学的・社会的・心理的側面を統合し、専門職としての判断力と支援能力を育成する。						
1. 到達目標						
【知識】 1. リプロダクティブヘルス・ヘルス/ライツの理念および関連法規を説明できる。 2. 女性のライフサイクル各期における主要な健康課題を説明できる。 3. 母子感染の現状と予防対策を説明できる。 4. 性暴力被害者支援の専門的対応を説明できる。 5. 骨盤底疾患・婦人科感染症の医学的基礎を説明できる。 6. 各種避妊法の理論と適応を説明できる。 7. 不妊治療を受ける女性・家族の心理社会的課題を説明できる。 【統合・実践】 8. 事例に応じた受胎調節指導計画を立案できる。 9. リプロダクティブ・ライフプラン支援の模擬指導を実施できる。 10. 倫理的視点を踏まえた支援方針を提示できる。						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
到達目標である「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」を含むウイメンズヘルスの主要概念について理解することは DP 1, 2 と関連する。また、ライフサイクルにおける女性特有の健康課題（女性生殖器疾患、性感染症、性暴力被害など）に応じた治療・看護について理解することは DP2 と、女性の健康課題解決のための関連法規について理解することは DP5, 6 と関連する。さらに、事前学習や課題に対する討議、ミニレポートといった学習方法は DP7 につながる。 【専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力】 DP 2 女性のライフサイクル各期におけるリプロヘルス・ヘルス/ライツに関する支援ができる能力 DP 3 周産期における母子および家族の健康課題の支援ができる能力 DP 5 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力 【倫理観、態度】 DP 1 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 DP 4 産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助ができる能力 DP 6 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 DP 7 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力						

4. 授業計画と内容
【第1回】 ガイダンスおよびリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念・倫理的視点（講義）： 科目の目的・評価方法説明、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念、倫理的課題と助産師の責務 【第2回】 ライフサイクルとリプロダクティブ・ヘルス課題の統合演習（阿部） ライフサイクル事例提示、支援課題の抽出、今後の専門講義との関連づけ、助産師の役割整理 【第3, 4回】 母子感染の最新動向（廣瀬）： 母子感染および先天梅毒の現状と予防対策（疫学的動向、スクリーニング体制、公衆衛生課題を含む） 性感染症の疫学・予防教育・支援の実際（無症状感染、若年層の性行動、コンドームの限界を含む） ＊妊娠期スクリーニング体制およびHIV 母子感染予防対策の現状と課題を含む。 【第5, 6回】 性暴力被害者支援（家吉）：法的配慮、初期対応、証拠保全、心理的支援、多職種連携 【第7, 8回】 婦人科感染症・各種避妊法（深津）：婦人科感染症、ホルモン避妊法、IUD/IUS、緊急避妊、 適応と禁忌 【第9, 10回】 骨盤底疾患・排尿障害（宮里）：尿失禁、骨盤臓器脱、保温療法、外科療法 【第11回】 生殖医療と周産期医療の連携の重要性（阿部）：プレ/インターコンセプション・ケア 【第12回】 不妊症認定看護師による講話（徳永）：不妊治療を受ける女性・家族の心理、意思決定支援 経済的・社会的課題、グリーフケア 統合演習（阿部） 【第13回】 受胎調節事例検討 【第14回】 リプロダクティブ・ライフプラン支援演習：模擬個別指導、相互評価、フィードバック 【第15回】 統合振り返り、到達度確認：演習の振り返り、学習到達度確認試験
5. テキスト・参考文献
助産学講座1～5、医学書院 プリンシプル産婦人科学 婦人科編 北村 邦夫「受胎調節指導用テキスト（リズムダイヤル付き）」日本家族計画協会，2020 参考図書： 木村好秀，斎藤益子「家族計画指導の実際 第2版増補版」医学書院，2017 加納尚美，李節子，家吉望み「フォレンジック看護-性暴力被害者支援の基本から実践まで」医歯薬出版，2016 ＊参考資料等は必要に応じて適宜紹介する。
6. 準備学習
事前学習を行い参加すること
7. 成績評価の方法
● 筆記試験 70% ● 受胎調節指導計画レポート 20% ● 授業参加態度 10% ※生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは不正行為とみなす。
8. 履修の条件
特になし
9. その他
この科目は、受胎調節実施指導員認定講習の一部である。 オムニバス方式での授業である。授業日の詳細は授業時に説明する。

授業コード	科目名	妊娠期の助産診断・技術学 Midwifery Diagnosis and The Nursing Skill in Pregnancy			担当教員	長嶺絵里子、松井博子 吉田麻耶
助 109					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	研 417	月曜日・木曜日：5 限目	

1. 授業の概要

助産実践に必要な基礎的知識の修得および技術の理解によって基本的な助産診断を学習する。妊婦とその家族の生活を助産師として正しく診断し支援できるようになるために、妊婦の妊娠経過や健康生活、および、心理・社会的生活の診断における基礎的な助産診断力、助産実践力、臨床的態度を修得する。また、妊娠期の助産過程の展開では、助産診断の原理・原則に基づき、個々の妊産褥婦・新生児のリスクおよび健康状態を適切に査定し、また対象の心理的・社会的側面を理解して、ケアに反映させていく過程を理解する。さらに、ハイリスク妊娠・異常妊娠を含む妊娠期の多様なリスク状況に対して安全で適切な支援を行うための基礎的理解を深める。講義を通して、助産師として対象に寄り添い、受け手の満足につながるニーズに合ったケアを提供する能力を養う。本授業は、講義・演習を組み合わせ実施する。実務経験のある教員、学外講師が担当する。

2. 到達目標

1) 妊娠期助産診断に必要な基礎的知識を理解し説明できる。

2) 妊娠期の健康生活を維持し、セルフケア能力を高めるケアを理解し説明できる。

3) 妊婦及び家族に対して診断に基づいた支援について学修する。

4) 助産技術の提供に必要な基本的姿勢を身につける。

5) 妊娠期の助産過程の展開の方法を理解し、適切にアセスメントできる。

6) 正常な妊娠期経過が、異常に移行するリスクについてアセスメントできる。

3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性

本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。

〈倫理観、態度〉

(DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力

(DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力

(DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力。

〈専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力〉

(DP2) 女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力

(DP3) 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力

(DP4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力

(DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力

4. 授業計画と内容

第1回：妊娠期ケアの理念、妊娠期の助産診断の特徴、妊娠期の助産診断型

妊娠期の生理(母体の変化、胎児の発育と胎児附属物) (長嶺)

<準備学習：助産学講座 6 第 1 章、第 4 章>

第2回：妊娠期のフィジカルアセスメント	(長嶺)
妊婦の健康診査、妊婦の健康診査に必要な技術、妊娠の診断、妊娠の経過診断、胎児の発育・健康状態の診断	
＜準備学習：助産学講座6第4章＞	
第3-4回：妊婦の日常生活行動の診断	(長嶺)
日常生活適応へのケア、健康生活の診断と保健指導、妊婦と家族の心理・社会的側面、心理・社会面への支援、就労女性への支援	
＜準備学習：助産学講座6第4章、5章、助産学講座4第2章＞	
第5-6回：ハイリスク妊娠・異常妊娠の支援	(長嶺)
ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦、母子感染の妊婦、社会的・心理的ハイリスクの妊婦	
＜準備学習：助産学講座6第6章＞	
第7回：助産診断・助産過程、助産過程	(長嶺)グループワーク
助産過程とは、妊娠初期のアセスメントと助産診断（事例展開）	
＜準備学習：助産学講座6第1・4章、実践マタニティ診断＞	
第8-9回：助産診断・助産過程 中期・後期のアセスメントと助産診断（事例展開）	
＜準備学習：助産学講座6第4章、実践マタニティ診断＞	(長嶺)グループワーク
第10回：助産診断・助産過程 後期のアセスメントと助産診断（事例展開）	
＜準備学習：助産学講座6第4章、実践マタニティ診断＞	
第11回：助産診断・助産過程：発表会	(長嶺)グループワーク
第12-13回：妊婦健診に必要な技術〈技術演習〉	(長嶺、松井)演習
(問診、身体計測、子宮底・腹囲計測、骨盤計測、胎児心拍モニタリングの装着)	
＜準備学習：助産学講座6第4章、写真でわかる助産技術＞	
第14-15回：妊娠期からの食生活支援 ― 母子を育む食育 ―	(外部講師：島袋初美) 調理実習
第16回：期末試験	
5. テキスト・参考文献	
我部山キヨ子他編、助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ〔I〕妊娠期、医学書院 我部山キヨ子他編、助産学講座4基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 日本助産診断・実践研究会編、マタニティ診断ガイドブック第7版、医学書院 我部山キヨ子・大石時子編、助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院 中根直子監修、新訂第2版 写真でわかる助産技術アドバンス [Web 動画付]、インターメディア 進純朗、助産外来の健診技術 根拠にもとづく診察とセルフケア指導、医学書院 医学情報科学研究所編・病気が見える産科 VOL. 10 第4版、メディックメディア 藤森敬也、胎児心拍数モニタリング講座、MC メディカ出版 エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期～助産学会誌 産婦人科診療ガイドライン 2023 産科編、日本産婦人科学会 金井雄二、これから始める！周産期超音波の見かた、MC メディカ出版 今日の助産マタニティサイクルの助産診断・実践課程 第4版 南山堂	
6. 準備学習	
・母性看護に関する既習の知識・技術は、復習してから授業に臨んで下さい。 ・授業内容の理解を深めるために、事前に上記の授業計画に示された内容を確認し、用語の理解の主	

張の把握、根拠の整理を行って、授業に参加下さい。	
・授業後は学習成果を振り返り、理解出来なかった点を明確にしておくことが重要です。	
7. 成績評価の方法	
課題（技術演習、助産診断）	20 点
期末試験	60 点
活動状況(授業態度、授業へのコミットメント)	20 点
合計	100 点
・生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
・産科に関する情報に関心を持ち、新聞やニュース等から積極的に情報を得るようにしましょう。 ・日頃から健康、食生活や食行動を意識し、自身の健康づくりに取り組んでいきましょう。 ・シラバスは授業の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。	

授業コード	科目名	分娩期の助産診断・技術学 Midwifery Diagnosis and The Nursing Skill in During Labor			担当教員	長嶺絵里子、松井博子、 吉田麻耶
助 110					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	前期	6	研 417	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
分娩期に焦点を当て、母児の健康状態の査定および個々バースプランを尊重した助産実践のために必要な助産診断・技術を修得する。具体的には、①周産期医学での学習内容を基盤に、正常な産婦の経過を適切に判断できる助産診断能力、②女性の産む力をひきだし、バースプランを尊重した安全・安楽・満足な出産のための助産技術、③正常な分娩経過を逸脱した場合の対応、すなわち、急遂遂娩、異常分娩の介補等のハイリスク・異常分娩時のアセスメントについて学修する。また、分娩期の助産過程の展開では、助産診断の原理・原則に基づき、個々の妊産褥婦・新生児のリスクおよび健康状態を適切に査定し、対象の心理的・社会的側面を理解して、ケアに反映させていく過程を理解する。さらに、シナリオ演習を通して対象に寄り添い、受け手の満足につながるニーズに合ったケアを提供する能力を養う。本授業は講義と演習を組み合わせる。助産師としての実務経験のある教員が担当する。また、実務経験を有する学外講師を招聘し、理論と実践を結びつけて学びを深める。						
2. 到達目標						
1) 産婦および家族、胎児にとって安心・安全・快適なお産ができるよう支援するための基本的知識を理解し、説明できる。 2) 産婦の入院から分娩第 4 期までの助産師の役割を理解し、診断技術と分娩経過に必要なアセスメント視点を理解し、説明できる。 3) 産婦の主体性を引き出すケアのためのリラクゼーションや産通緩和の方法を理解し体験できる。 4) 分娩経過中の異常や緊急時の予測と対応、産科手術、産科的医療処置について理解できる。 5) 分娩期の助産過程（情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価）の展開ができる。 6) 分娩介助時における ISBARC を用いたコミュニケーションを理解し、助産学生としての役割をイメージできる。						
3. ディプロマポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 ＜倫理観、態度＞ （DP1）思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 （DP4）高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力 （DP6）助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域に貢献できる能力 （DP7）社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 ＜専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力＞ （DP2）分娩期における女性のリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 （DP3）離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 （DP5）保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						

4. 授業計画と内容		
第1回	ガイダンス 学修の進め方、分娩期の対象理解と助産師の役割 ＜準備学習：助産学講座5 序章＞	(長嶺)
第2-3回	分娩の生理 ①分娩に関する定義と種類 ②分娩3要素 ③分娩が母体・胎児に及ぼす影響 ④分娩期の心理社会的変化 ⑤分娩3要素の異常 ⑥産婦の健康診査に必要な技術 (内診) ＜準備学習：助産学講座7 第1, 2, 5章＞	(長嶺)
第4回	分娩期の助産診断 (1) ①分娩期の助産診断の特徴と診断類型 ②分娩期のフィジカルアセスメント ③母体・胎児の健康状態のアセスメント ④胎児付属物のアセスメント ＜準備学習：助産学講座7 第2章＞	(長嶺)
第5回	分娩期の助産診断 (2) ①分娩期の経過診断：娩出力の診断、胎児の位置の診断 ②分娩進行状態の診断：フリードマン曲線と分娩予測、パルトグラムの記載 ＜準備学習：助産学講座7 第2章＞	(長嶺)
第6-7回	分娩介助法 ①分娩介助の目標と準備 ②正常分娩介助法の実際 ③胎児付属物の検査と計測 ＜準備学習：助産学講座7 第3章＞	(長嶺)
第8-9回	産婦への支援 ①産婦への支援の基本 ②産痛のメカニズムと産痛緩和、呼吸法 ＜準備学習：助産学講座7 第4章＞	(長嶺)
第10回	分娩経過にそったケア ＜準備学習：助産学講座7 第4章＞	(学外講師：大嶋)
第11回	出生直後の新生児のアセスメントとケア ＜準備学習：助産学講座8 第2章＞	(吉田)
第12回	ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援、産科的医療処置 ＜準備学習：助産学講座7 第6-7章＞	(長嶺)
第13-14回	分娩期の助産過程の展開① 概要 <ワーク・ディスカッション> ＜準備学習：実践マタニティ診断 第3章＞	(長嶺、松井、吉田)
第15-16回	分娩期の助産過程の展開② 初期診断 <ワーク・ディスカッション> ＜準備学習：実践マタニティ診断 第3章＞	(長嶺、松井、吉田)
第17-18回	分娩期の助産過程の展開③ 助産過程 <ワーク・ディスカッション> ＜準備学習：実践マタニティ診断 第3章＞	(長嶺、松井、吉田)
第19-20回	分娩期の助産診断・技術演習 <演習> ＜準備学習：助産学講座7 第2章＞	(長嶺、松井、吉田)
第21-22回	アクティブバース・フリースタイル分娩 <講義・演習> ※沖縄市母子未来センターにて予定 ＜準備学習：助産学講座7 第3章＞	(学外講師：宮里直美)
第23回	期末試験	
5. テキスト・参考文献		
堀内成子編, 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ, 医学書院		
我部山キヨ子編, 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期, 医学書院		

石井邦子編，助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ(3)新生児期・乳幼児期，医学書院 日本産科婦人科学会編，産婦人科診療ガイドライン産科編 2023，日本産科婦人科学会 日本助産診断実践学会，マタニティ診断ガイドブック第 7 版，医学書院 青木康子編，実践マタニティ診断第 6 版，医学書院 武谷雄二，プリンシプル産科婦人科学 2 産科編，第 3 版，メディカルビュー 北川真理子編，今日の助産，改訂第 4 版，南江堂 中根直子他，写真でわかる助産技術アドバンス，新訂第 2 版，インターメディカ 石川紀子他，THE 分娩ビジュアルで学ぶ 生理学・助産診断・分娩介助のすべて，メディカ出版 村上明美編，DVD で学ぶ仰臥位分娩介助技術 熟練の技を求めて，医歯薬出版株式会 医療情報科学研究所編，病気がみえる産科第 4 版，MEDIC MEDIA エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期～助産学会誌 厚生労働科学研究 妊娠出産のためのガイドライン，科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン，金原出版 我部山キヨ子他編，助産師のためのフィジカルイグザミネーション，医学書院 岩田塔子，体位別フリースタイル分娩介助法，メディカ出版 竹田省，高橋真理編，CG 動画でわかる分娩のしくみと介助法，メディカルビュー 進純朗，分娩介助学，第 2 版，医学書院	
6. 準備学習	
・ 授業計画に示された内容を確認し、用語の理解、根拠の整理を行って、授業に参加すること。 ・ 授業後は学習成果を振り返り、理解出来なかった点を明確にしておくことが重要である。 ・ 周産期医学、分娩期助産演習、周産期ハイリスクケア論に継続させて、学びを深めること。	
7. 成績評価の方法	
助産診断	20 点
期末試験	60 点
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント）	20 点
合計	100 点
・ 生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
・ 授業計画は、講義の進行状況に応じて変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。 ・ 日頃から産科に関する情報に関心を持ち、新聞やニュース等から積極的に情報を得るようにしましょう。	

授業コード	科目名	産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学 Midwifery Diagnosis and the Nursing Skill in Postpartum Woman, Newborn, Neonatal			担当教員	松井博子、長嶺絵里子、 吉田麻耶、大城洋子、 峯田昌、野村れいか、 新垣利奈
助 111					E-mail	h.matsui@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
産褥期・新生児・育児期における助産の判断・実践に必要な基本的知識・技術を修得する。新生児の適応生理について学習し、異常の早期発見と異常への対処の必要性和方法について理解する。母乳育児については、どのような支援が必要かについて、エビデンスに基づいた根拠と母乳育児を成功させるための方法・技術を習得し、実践に繋げることができるための技術と知識を修得する。それらを基に母乳哺育を成功させるための支援の仕方を考える。褥婦およびその家族が新たな家族形成をしていく発達課題を達成できるように母子関係・父子関係等の家族関係や親性・育児性等に対する支援ができるために必要な基礎的知識と技術を修得する。また、産褥期・新生児期の助産過程の展開では、助産診断の原理・原則に基づき、個々の妊産褥婦・新生児のリスクおよび健康状態を適切にアセスメントし、また対象の心理的・社会的側面を理解して、ケアに反映させていく過程を理解し、対象に寄り添い、受け手の満足につながるニーズに合ったケアを提供する能力を養う。この科目は、実務経験のある教員や学外講師が担当する。授業形式は、講義・演習で実施する。						
2. 到達目標						
1) 産褥期・新生児期の正常な生理的变化を理解し、経過診断に必要なアセスメント視点を学ぶ。 2) 出生後早期の胎外生活適応のプロセスを理解し、正常からの逸脱を防ぐための予防的ケアについて理解する。 3) 産褥期にある女性の身体的、精神・心理的、社会的問題について理解する。 4) 退院後の生活・育児に向けた支援について考察ができる。 5) 母子の愛着形成、母乳育児支援など、産褥・新生児・育児期に必要な援助技術を習得する。 6) 母子とその家族をめぐる家族関係の発達理論について理解する。 7) NICU における児と家族へのケア、Family Centered Care (FCC) の概念について理解する。 8) 母子とその家族の関係性の構築および親役割獲得における助産師の役割について考察する。 9) 産褥期・新生児期の助産過程を展開することができる。						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマ・ポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 ＜倫理観、態度＞ (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP4) 産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助ができる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力。 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 ＜専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力＞ (DP2) 産褥期における リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力						

(DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力	
4. 授業計画と内容	
第1回	ガイダンス、産褥期・新生児期の助産診断の特徴と診断類型 (松井) ＜事前学習：助産講座7 第9-10章＞
第2回	産褥期のフィジカルアセスメントとその支援 (松井) ＜事前学習：助産講座7 第10章＞
第3回	産褥期の心理社会的アセスメントとその支援、子をなくす親へのケア (松井) (ペリネイタルロス、ターミナルケア) ＜事前学習：助産講座7 第10章＞
第4回	家族関係（父子・きょうだい）の構築と支援、家庭・社会生活復帰への支援・家族計画の支援 ＜事前学習：助産講座7 第11章＞
第5回	新生児のフィジカルアセスメントとその支援 (松井) ＜事前学習：助産講座8 第2-章＞
第6回	異常褥婦のアセスメントとその支援 (松井) ＜事前学習：助産講座7 第13章＞
第7-8回	育児行動取得への支援、親役割行動獲得のための支援 (外部講師：峯田) ＜事前学習：助産講座7 第11章＞
第9-11回	母乳育児に関する基本的知識〔各論〕 (外部講師：大城) 講義・演習 乳房の解剖生理、母乳の分泌機序、新生児の哺乳行動、乳房トラブルと対処法、 人工乳の医学的適応 母乳育児を成功させるための10か条、母乳育児を継続するために有効な支援（出産前教育） ＜事前学習：助産講座7 第14章、母乳育児支援講座 第2版＞
第12回	産褥期の助産診断と展開（講義・演習） (松井) ＜事前学習：実践マタニティ診断 第4章＞
第13回	新生児期の助産診断と展開（講義・演習） (松井) ＜事前学習：実践マタニティ診断 第5章＞
第14回	育児期の助産診断と展開（講義・演習）後期の母乳育児研修 (松井) ＜事前学習：実践マタニティ診断 第4章、助産講座7 第14章＞
第15回	産褥期と新生児期、育児期の助産診断の発表 (松井) ＜事前学習：実践マタニティ診断 第4-6章＞
第16-17回	産褥期・新生児の助産診断・技術（演習） (松井、長嶺、吉田) ＜事前学習：母性看護技術アドバンス＞
【後期授業】	
第18回	乳児期の成長発達を促す支援、事故予防 (松井) ＜事前学習：助産講座8 第2-3章＞
第19-20回	心理療法士立場からの乳児、幼児の母子関係、発達障がい児への支援 ＜事前学習：助産講座8 第6章＞ (外部講師：野村)
第21-22回	Family Centered Care (FCC) : FCC 概念、NICU (外部講師：新垣) 講義・演習 NICUのケアに関する演習 : 保育器の取り扱い方、保育器内での清潔ケア・授乳 ディベロップメンタルケア(ポジショニング・ネスティング)等

＜事前学習：助産講座 8 第 4-5 章＞	
第 23 回 期末試験	
5. テキスト・参考文献	
我部山キヨ子・毛利多恵子編．助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期，医学書院，東京． 横尾京子編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期，医学書院，東京． 河井昌彦：新生児医学 金芳堂． 日本助産診断実践学会編：実践マタニティ診断、医学書院 日本助産師会：乳腺炎：母乳育児支援業務基準，日本助産師会出版，東京． NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会：母乳育児支援スタンダード（第 2 版）、医学書院 国際連合児童基金：世界保健機関 U N I C E F／WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド：「母乳育児成功のための 10 カ条」の実践．ベーシック・コース，医学書院． 水野克己：母乳育児支援講座 第 2 版、南山堂 平澤美恵子ら：写真で分かる母性看護技術アドバンス、インタメディカ 水野克己：エビデンスにもとづく早産児母乳育児マニュアル、メディカ出版 病気がみえる Vol110 産科第 4 版，メディックメディア． 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編「産婦人科診療ガイドライン産科編 2020」（日本産科婦人科学会） ＊この他の参考図書は、随時紹介する。	
6. 準備学習	
授業の計画と内容に沿って、予習をしておくこと。	
7. 成績評価の方法	
レポート課題（課題演習：助産過程の記録物、技術演習の事前課題）	30 点
期末試験	60 点
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	10 点
合計	100 点
※生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
本科目で展開する内容は、受胎調節実地指導員の資格認定に必要なものの一部を含みます。	

授業コード	科目名	周産期ハイリスクケア論 Introduction to Perinatal High Risk Care			担当教員	長嶺絵里子、松井博子、 吉田麻耶、真喜屋智子、 木里頼子、森實真由美、 宮貴子
助 112					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	研 417	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
周産期医療の現状と助産師の役割を踏まえ、ハイリスク妊産婦・新生児に対する知識と技術を学習し、適切な助産ケアができる能力を養う。また、助産師として異常の早期発見と異常への対処の必要性和方法を正しく理解し、チーム医療における助産師の役割を認識できる教育内容とする。新生児の異常を早期発見し対処できるように、新生児蘇生法を実践できるように実習も兼ねて行う。この科目では、新生児の救急蘇生法について学修し、NCPR：A コースのライセンスを取得する。この科目は、実務経験のある教員や外部講師が担当し、理論と実践の両面から理解を深める。授業形式は、講義・演習で実施する。						
2. 到達目標						
1) ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児期における母児に対するアセスメントができる。 2) ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児期における母児に対する適切な助産ケアを理解する。 3) 産科における救急時対応や無痛分娩における助産師の役割を理解する。 4) NICU における新生児の異常の早期発見と異常発生時に対処できる蘇生方法を修得できる。 5) 周産期メンタルヘルスへの対応について理解する。						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマ・ポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 ＜倫理観、態度＞ (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP4) 産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助ができる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 ＜専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力＞ (DP2) 女性のライフサイクル各期のリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
第1回 授業概要 新生児蘇生法（NCPR A コース）の事前学習 ＜事前学習：新生児蘇生法テキスト第4版の予習＞ 第2-5回 新生児蘇生法（NCPR A コース）講習会（学外講師：真喜屋、木里） ＜事前学習：新生児蘇生法テキスト第4版の予習＞ 第6回 周産期医療の現状と助産師の役割 第7回 ハイリスク妊産婦に関する助産ケア（事前学習・課題）（長嶺） ＜事前学習：助産学講座6-8：該当項目について予習＞						

第 8-9 回 ハイリスク妊産褥婦のアセスメントとケア（発表） <事前学習：助産学講座 6-8：該当項目について予習、助産実習で体験したハイリスクの事例についてスライド作成・発表>	
第 10-11 回 産科救急における助産ケア、母体急変時の初期対応（学外講師：森實） <事前学習：「母体急変時の初期対応」テキストの予習>	
第 12 回 無痛分娩と助産師の役割（学外講師：森實） <事前学習：助産学講座 7 第 7 章>	
第 13-14 回 周産期メンタルヘルスへの対応（学外講師：宮） <事前学習：助産学講座 7 第 11, 13 章>	
第 15 回 NICU のハイリスク児のアセスメントとケア、記録方法	
5. テキスト・参考文献	
我部山キヨ子編，助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ，医学書院 「母体急変時の初期対応」第 3 版，メディカ出版 細野茂春、『日本版救急蘇生ガイドライン 2025 に基づく新生児蘇生法テキスト<web 動画付>第 5 版』，メジカルビュー社 青木康子編，実践マタニティ診断第 5 版，医学書院 日本産科婦人科学会編，産婦人科診療ガイドライン産科編，杏林舎 エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期～助産学会誌 武谷雄二，プリンシプル産科婦人科学 2 産科第 3 版，メジカルビュー社 北川眞理子編，今日の助産改訂第 4 版，南江堂 我部山キヨ子他編・助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第 5 版』（医学書院） 横尾京子編・助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 第 5 版、医学書院 小林康江編、助産師基礎教育テキスト 第 7 巻 2020 年度版 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア，日本看護協会出版会	
6. 準備学習	
授業内容の理解を深めるために、事前課題内容を確認し、用語の理解、技術の根拠を整理して授業に参加すること。授業後は学習成果を振り返り、理解出来なかった点を明確にしておくことが重要である。	
7. 成績評価の方法	
レポート課題（事前学習課題）	30 点
期末試験 (NCPR 認定試験)	40 点
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	30 点
合計	100 点
※生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
・授業計画は、講義の進行状況に応じて変更となる場合があります。あらかじめ ご了承ください。	

授業コード	科目名	健康教育技法 Health Care Teaching Methods			担当教員	松井博子、長嶺絵里子 吉田麻耶
助 113					E-mail	h.matsui@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	研 419	月曜日・木曜日：5 限目	
1. 授業の概要						
この科目では、女性とその家族が、その人らしくより良く健康に生活していくための健康教育について学習する。相談・教育・援助活動の基本を理解し、実際を通じた小集団指導の技法を修得する。 カウンセリング技法を含めた相談・教育・援助活動の基本的知識およびコミュニケーションについての理解を深める。これらの健康教育の理論を活用して、分娩期・育児期・思春期の女性及び家族を対象とした健康教育計画を立案し、健康教育を展開する。また、小集団指導の実践として、母親学級、出張思春期教育に関する健康教育の企画・運営を行う。本授業は、講義・演習を組み合わせ実施する。助産師として実務経験のある教員が担当する。						
2. 到達目標						
1) 相談・教育・援助活動の基本について理解する。 2) 健康教育の企画・運営を通じ、小集団指導の実際を学び、健康教育に必要な知識・技術の理解を深める。 3) 助産師に必要なコミュニケーションスキルが活用できる。 4) 対象の特徴を把握し、地域における人々の生活をイメージしながら健康教室を企画、運営計画ができる。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 〈倫理観、態度〉 (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力。 〈専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力〉 (DP2) 思春期の健康教育をはじめとする女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
【前期】						
第1回：健康教育定義、相談・教育・援助活動の基本(基本的なコミュニケーションスキル、アサーティブネス)、個別指導・集団指導の特徴 (松井)						
＜準備学習：助産学講座5 第2、3章、助産学講座9、5章＞						
第2回：健康教育の方法 指導案の作成過程(三観：対象観、教育観、指導観)						
健康教育の実際（教育活動の目的、方法等） (松井) グループワーク						
＜準備学習：助産学講座5 第2、3章＞						

第3回：個別・小集団の健康教育の実践 指導案作成・媒体作り(パンフレット作成)	(松井、長嶺、吉田) グループワーク
第4回：個別・小集団の健康教育の実践 指導案作成・媒体作り(パンフレット作成)	(松井、長嶺、吉田) グループワーク
第5回：個別・小集団の健康教育の実践 指導案作成・媒体作り(パンフレット作成)	(松井、長嶺、吉田) グループワーク
第6回：個別・小集団の健康教育の実践 指導案作成・媒体作り(パンフレット作成)	(松井、長嶺、吉田) グループワーク
第7回：個別・小集団の健康教育の実践 指導案作成・媒体作り(パンフレット作成)	(松井、長嶺、吉田) グループワーク
第8回：健康教育発表①〈学内活動〉 妊娠期、分娩期、産褥期・育児期の保健(退院)指導の企画・運営	(松井、長嶺、吉田)
【後期】(開始時期 10 月)	
第9回：後期ガイダンス、集団指導健康教育の実践、包括的性教育とは コミュニケーション・カウンセリング技法、健康教育企画書作成 ＜準備学習：助産学講座 9、5 章＞	(松井)
第10－12回：思春期健康教育内容、計画書作成 思春期健康教育の指導案作成・媒体作り	(松井、長嶺、吉田) グループワーク
第13回：健康教育発表〈学外活動〉 北部の小中学校と連携し、出張思春期教育を企画・運営する ①健康教育にむけた学校との事前調整(10月頃) ②思春期健康教育実践(北部の小学校、2校で実施)	(松井、長嶺、吉田)
第14回：地域の母子支援の指導案作成・媒体作り(伊平屋村)	(松井、長嶺、吉田)
第15回：地域の母子支援の指導案作成・媒体作り(伊平屋村)	(松井、長嶺、吉田)
第16回：まとめ、リフレクション	(松井)
5. テキスト・参考文献	
助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ，医学書院，堀内成子 他 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健，医学書院，我部山キヨ子 他 マタニティサイクルの実践保健指導・妊娠期，丸善プラネット，鈴木由美 マタニティサイクルの実践保健指導・産褥期，丸善プラネット，鈴木由美 妊産婦の保健指導トラの巻，成瀬勝彦，メディカ出版	
6. 準備学習	
講義（健康教育コース）に関連する内容を予め参考図書を読み予習する。	
7. 成績評価の方法	
課題（パンフレット、指導案）	30 点
健康教育の実践（プレゼンテーション）	50 点
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント）	20 点
合計	100 点
生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	

8. 履修の条件
前期：特になし 後期：前期科目を全て履修していること
9. その他
助産学実習Ⅰ、Ⅱ、母子ケアリング実習に継続する科目である

授業コード	科目名	分娩期助産演習 Practice of Midwifery Assistance During Childbirth			担当教員	松井博子、長嶺絵里子、 吉田麻耶
助 114					E-mail	h.matsui@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
周産期の助産診断とケアに必要な助産技術の演習を通して修得する。出産は母児双方に関わる概念であることを理解し、出生を介助する援助技術を学ぶ。分娩介助の意義・原理について学び、分娩介助技術の基本を習得する。分娩経過中の異常や緊急時の助産師の役割について理解を深め、ハイリスク妊娠分娩産褥で学んだ知識を観察の視点とし、助産師がとるべき行動について学修する。また、産婦の健康をホリスティックに捉え、助産ケアに必要な知識・技術の理解を深める。新生児に対しては出生時のアルゴリズムに即した援助方法、早期母子接触の支援の実際を学ぶ。本授業は演習形式で実施する。助産師としての実務経験のある教員が担当する。						
2. 到達目標						
1) 分娩介助に必要な助産技術の提供のための基本的知識・技術を理解する。 2) 分娩介助の原理、助産技術の提供に必要な基本的知識を踏まえ、清潔かつ安全・安楽に分娩介助を実施できる。 3) 分娩介助実習時に求められる学修者としての姿勢を自分の言葉で説明できる。 4) 分娩期におけるケア技術を実施・評価できる。 5) グループで協力して課題に取り組み、知識、技術を習得する。						
3. ディプロマポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 ＜倫理観、態度＞ (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 ＜専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力＞ (DP2) 分娩期の女性のリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
第 1-3 回 分娩介助法（1）＜演習＞ ＊ガイダンス：授業概要、学修の進め方、「分娩介助手順書」について ＊分娩介助技術のデモンストレーション【見学】 ①分娩時の準備：分娩室の準備、器具・機材の配置、手指消毒 ②ガウンテクニック ③外陰部洗浄、清潔野作成						

	④呼吸法、努責 ⑤肛門保護、会陰保護 ⑥児頭娩出、体幹娩出 ⑦出生直後の新生児のケア、臍帯切断 ⑧胎盤娩出 <u>＊分娩介助演習 1 回目（通し）</u> ・以後、3 人グループになり技術演習を行っていく ・直接介助、間接介助（観察）、産婦（児娩出）を分担して担う ＜準備学習：助産学講座 7 第 3 章＞
第 4-6 回	分娩介助法（2）＜演習＞ <u>＊分娩介助練習 2 回目（通し、陣痛を想定）</u> ・ファントムを用いて正常分娩介助に基づく介助技術の習得 ・分娩準備から胎盤娩出までの分娩介助時の技術 ＜準備学習：助産学講座 7 第 3-4 章＞
第 7 回	分娩介助演習：中間評価 ・技術チェックリストに基づき評価 ・リフレクションを実施し、各自の課題を明確にする。
第 8-9 回	分娩介助法（3）＜演習＞ <u>＊直前導尿についてのデモンストレーション【見学】</u> <u>＊分娩介助練習 3 回目（通し、場面設定）</u> 場面：内診、導尿、呼吸法を意識した産婦のケア ＜準備学習：助産学講座 7 第 2-4 章＞
第 10 回	分娩介助法（4）＜演習＞ <u>＊分娩第 4 期ケアのデモンストレーション【見学】</u> ①分娩第 4 期の観察・ケア、早期母子接触 ②間接介助の役割と動き ③胎盤計測・評価 ④出血量の測定、後片づけ（分娩台、物品、分娩室） <u>＊胎盤計測の実施</u> ＜準備学習：助産学講座 7 第 3-4 章＞
第 11 回	分娩介助法（5）＜演習＞ <u>＊児受けのデモンストレーション【見学】</u> ①児受けの役割と動き ②出生直後の新生児のケア ・第一啼泣の助成、児のバイタルサイン測定と観察、アプガースコア、臍処置 ・成熟度の判断、神経学的所見、標識装着、身体計測 <u>＊児受けの実施（児の出生～直後ケア）</u> ＜準備学習：助産学講座 8 第 2 章＞
第 12-13 回	分娩介助法（6）＜演習＞ <u>＊分娩介助練習 4 回目（通し、場面設定～分娩第 4 期のケア・片付けまで）</u>

場面：急速遂娩が必要な産婦のケア（児心音低下、臍帯巻絡） <準備学習：助産学講座 7 第 3-5 章> 第 14-15 回 分娩介助技術テスト：最終評価	
5. テキスト・参考文献	
我部山キヨ子編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期，医学書院 石井邦子編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ(3)新生児期・乳幼児期，医学書院 日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編 2023，日本産科婦人科学会 日本助産診断実践学会：マタニティ診断ガイドブック第 7 版，医学書院 青木康子編：実践マタニティ診断第 6 版，医学書院 武谷雄二：プリンシプル産科婦人科学 2 産科編，第 3 版，メディカルビュー 北川眞理子編：今日の助産，改訂第 4 版，南江堂 中根直子他：写真でわかる助産技術アドバンス，新訂第 2 版，インターメディカ 石川紀子他：THE 分娩ビジュアルで学ぶ 生理学・助産診断・分娩介助のすべて，メディカ出版 村上明美編：DVD で学ぶ仰臥位分娩介助技術 熟練の技を求めて，医歯薬出版株式会社 医療情報科学研究所編：病気がみえる産科第 4 版，MEDIC MEDIA 岩田塔子：体位別フリースタイル分娩介助法，メディカ出版 竹田省，高橋眞理編：CG 動画でわかる分娩のしくみと介助法，メディカルビュー 進純朗：分娩介助学，第 2 版，医学書院	
6. 準備学習	
助産師としての成長の土台となる基礎的な助産技術を身につける為、分娩演習に関して毎回目標を設定し、能動的な学修態度が必要となります。十分に予習・復習して臨んで下さい。	
7. 成績評価の方法	
期末試験 活動状況（授業態度、授業へのコミットメント） 合計	80 点 20 点 100 点
・ 生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
・ 特に、助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに継続する科目です。主体的に臨みましょう。 ・ 日頃から産科に関する情報に関心を持ち、新聞やニュース等から積極的に情報を得るようにしましょう。 ・ 授業計画は、講義の進行状況に応じて変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。	

授業コード	科目名	母子の癒し援助論 Relaxation and Healing Care Theory for Mother and Child			担当教員
助 115					E-mail nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
1	1	通年	6	研 417	月曜日・木曜日 5 限目
1. 授業の概要					
この科目では、人間の本来の健康(health)を身体的、精神的、スピリチュアル、社会的存在としてホリスティック(全体性)にとらえ、周産期の女性とその家族にとって心身の緊張をほぐすリラクゼーションケアや自然治癒力を高める癒しケアを学ぶ。リラクゼーション理論の実際として補完代替医療(東洋医学・鍼灸・指圧、アロマセラピー、タッチケア)、運動療法に關した母子への効果について学習し、助産実践の場で実践できる力を身につける。本授業は、講義・演習を組み合わせる実施する。実務経験のある教員、学外講師が担当する。					
2. 到達目標					
1) ホリスティックケアの概念を理解し、妊娠期・分娩期・産褥期の癒しケアについて理解できる。 2) 必要なリラクゼーションテクニックを身につけ、母子の支援ができる。 3) 助産援助に効果的な方法を実践できる。					
3. ディプロマ・ポリシー(DP)との関連性					
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 〈倫理観、態度〉 (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 〈専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力〉 (DP2) 女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力					
4. 授業計画と内容					
【前期】 第1回：ホリスティックアプローチ・ケア、補完代替療法、助産実践を高める触れるケア(長嶺) <準備学習：助産学講座3第6章> 第2回：妊娠から産後の姿勢・動作の評価と支援 (外部講師：久志 愛) 第3回：運動療法 妊娠期からの体づくり (吉田)演習 <準備学習：助産学講座3第4章> 第4～5回：代替補完療法：①東洋医学 (外部講師：諸喜田睦子) <準備学習：助産学講座3第6章> 第6～7回：運動療法〈妊娠中から産後のマタニティヨガの理論と実践〉 (外部講師：又吉真記)演習 <準備学習：助産学講座3第4章>					

第 8～9 回 代替補完療法〈アロマセラピー 基礎と実践〉	(長嶺)
＜準備学習：助産学講座 3 第 6 章＞	
第 10～11 回 妊娠・分娩・産褥育児期のリラクゼーション・触れるケアの実践	(吉田、長嶺、松井)演習
温罨法、足浴、バースレビュー時のハンドマッサージ、母乳分泌促進ケア等	
【後期】	
第 12～13 回：代替補完療法②東洋医学	(外部講師：諸喜田睦子)演習
＜準備学習：助産学講座 3 第 6 章＞	
第 14～15 回 ベビーマッサージ理論と演習	〈講義・演習〉 (吉田)演習
＜準備学習：助産学講座 3 第 6 章＞	
5. テキスト・参考文献	
辻内敬子, 出産準備教室東洋医学を取り入れた妊婦さんの体づくりとセルフケア, 医歯薬出版, 2012	
助産学講座 3, 母子の健康科学, 医学書院	
カーティー倫子, ママと赤ちゃんのためのアロマセラピー - 基礎と実践、日本助産師会出版	
無痛分娩を含めた産通緩和ケア, ペリネイタルケア, メディカ出版, 2016vol. 35	
6. 準備学習	
授業の計画と内容に沿って予習し授業に臨むこと。	
7. 成績評価の方法	
1) 課題レポート	
①演習前課題(グループ課題)	20 点
②講義・助産実習終了後課題(レポート)	30 点
『母子癒し援助論』を活かした助産実習での実践的アプローチ ～触れるケアの実践と効果について～	
レポートにまとめる (1,000 字程度) 〈提出時期：後学期開始 10 月〉	
2) 活動状況(授業態度、授業へのコミットメント、グループワークへの取り組み)	50 点
合計	100 点
生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
・助産ケアとしてスキルを習得するためには普段からケアを実践し、よりよいケアが提供できるように日常生活の中に取り入れる。	
9. その他	
シラバスは授業の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。	

授業コード	科目名	やんばるの母子保健 Maternal Health Nursing of "YANBARU" Typical Area in Okinawa			担当教員	長嶺絵里子、大浦早智、 小柳弘恵
助 116					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	研 417	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
最近の母子保健行政である成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策を理解するとともにその意義を学習する。現状を踏まえて、沖縄北部地域「やんばる」の母子を取り巻く地域社会の変化と特徴、母子とその家族が持つ母子保健上の諸問題を理解し、地域住民の多様なニーズに応じた母子保健活動を展開するための基礎的な介入方法を学習する。また、離島、僻地地域社会の概念やコミュニティについて理解し、保健・福祉の現状理解を深めて、すべての子どもが健やかに成長することのできる地域社会をめざす母子保健の意義を学習する。関連する法規、政策を学ぶと共に、多職種との連携、協働して母子保健を推進していくことの重要性とその方策について学習する。この科目は、医療現場での経験を踏まえ、理論と実践の両面から理解を深める。授業形式は、講義・演習で実施する。						
2. 到達目標						
1) 地域母子保健の概念、最近の母子保健行政（成育基本法）の動向を理解する。 2) やんばるの母子を取り巻く地域社会の特徴を理解する。 3) 地域母子保健の概念、僻地、離島地域における母子保健活動の現状を理解する。 4) 地域母子保健活動の展開方法を理解し、家庭訪問に必要な技術を習得できる。 5) 児童福祉施設乳児院及び乳幼児健康診査とその周辺の実状について理解する。 6) 沖縄やんばるの離島・僻地の医療および救急医療と母子保健の課題と展望について説明できる。						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマ・ポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 <倫理観、態度> (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP4) 産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助ができる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 <専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力> (DP2) リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
第 1 回 ガイダンス：地域母子保健の概念						

第3回	わが国のおもな母子保健制度・母子保健施策、最近の母子保健行政（成育基本法等） ＜事前学習 助産学講座9 第3章＞	（長嶺）
第4回	地域母子保健の現状と課題演習（人口動態統計、母子保健統計、周産期医療体制や連携、地域母子保健計画の展開等を踏まえる）	（長嶺）
【課題演習】地域母子保健活動の現状と課題について ①地域母子保健活動の現状について「沖縄」「名護」「伊平屋村」の地域の情報収集・分析する（市町村の母子保健より）。 ②北部地区の子育て環境、救急医療と母子保健、障がい児や母子に対する社会保障、福祉と医療保険制度の事前調査 （①②とも母子ケアリング実習の事前学習）		
	＜事前学習 助産学講座9 第4-5章＞	
第5-6回	成育基本法・健やか親子（第二次）の概要、北部における母子保健の現状と課題、北部での助産院の担う役割、離島・へき地における人的リソースの活用、島内外の看護職者の連携の実際	
	＜事前学習 助産学講座9 第4-5章＞	（学外講師：小柳）
第7回	僻地・離島地域における母子保健活動	（長嶺）
	＜事前学習 助産学講座9 第5章＞	
第8-9回	離島地域における多職種連携と支援	（学外講師：古堅）
	＜事前学習 助産学講座9 第5章＞	
第10回	児童福祉施設における乳児院の実際	（長嶺）
	＜事前学習 助産学講座9 第5章【課題演習】乳児院吉水寮における研修について事前学習＞	
第11回	乳幼児健康診査の実際	（長嶺）
	＜事前学習 助産学講座9 第3章、乳幼児健診マニュアル＞	
第12-14回	家庭訪問指導実際（演習）：家庭訪問ロールプレイング1）計画立案、2）計画発表 3）ロールプレイングの実践	
	＜事前学習 助産学講座9 第5章＞	（学外講師：大浦）
第15回	地域母子保健のまとめ・評価	（長嶺）
	＜事前学習 助産学講座9 第1-5章＞	
第16回	期末試験	
5. テキスト・参考文献		
武谷雄二、前原澄子編、助産学講座9地域母子保健第4版、医学書院 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会編、乳幼児健診マニュアル、医学書院 この他の参考図書は、随時紹介する。		
6. 準備学習		
事前学習を行い、授業に臨むこと。		
7. 成績評価の方法		
	レポート課題（課題演習）	30点
	期末試験	60点
	活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	10点
	合計	100点

※生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは不正行為とみなす。
8. 履修の条件
特になし
9. その他
母子ケアリング実習（僻地・離島）に継続する科目である。

授業コード	科目名	助産学実習Ⅰ（妊娠期・継続ケース） Midwifery Practicum I (Pregnancy/Assigned mother and the newborn)			担当教員	長嶺絵里子、松井博子、 吉田麻耶
助 117					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	研 417	月曜日・木曜日：5 限目	
1. 授業の概要						
周産期にある母子や家族を対象に、助産過程を通して助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な基本的理論・知識、技術、態度を修得する。妊娠期においては、妊娠各期に必要な診断技術を修得し、妊婦およびその家族に必要な援助や保健指導を展開するための基礎的能力を培う。継続ケースにおいては、妊娠後期から産褥 1 カ月までの母児を受け持ち、継続的に母児の健康診査・保健指導・援助を行う。対象をとりまく環境およびその家族について理解を深め、周産期における助産師の役割について学ぶ。本授業は臨地実習である。助産師として実務経験のある教員、指導者が担当する。						
2. 到達目標						
1) 助産の対象である妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性、子ども、その家族を身体的・心理的・社会的に統合された全体的な存在として述べることができる。						
2) 対象となる妊産婦を受け持ち、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児、母子訪問時のケアを安全性・快適性に配慮して実践できる。						
3) 対象となる妊産婦および胎児・新生児の健康状態を査定し、ケアの計画・実施・評価ができる。						
4) 助産過程の展開により、分娩経過の診断と予測を行うことができる。						
5) 分娩介助技術、産痛軽減のための技法を安全性・快適性に配慮して実践できる。						
6) 母子や家族に対する援助的人間関係を形成できる。						
7) 妊娠期から育児期における親性の発達過程を理解する。						
8) 助産実践時に専門職として必要な倫理に配慮して行動できる。						
9) 助産師・医師その他の関連職種との連携と協働を通して、医療チームの一員として行動できる。						
3. ディプロマ・ポリシー(DP)との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。						
〈倫理観、態度〉						
(DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力						
(DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力						
(DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力						
〈専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力〉						
(DP2) 女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力						
(DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力						
(DP4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力						
(DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
1. 妊娠期（外来実習）						
1) 産科外来にて、妊娠期ケースとして、妊娠初期 1 名、妊娠中期 1 名を受け持ち、妊婦健診に同行						

	する。(1 日実習：前日または当日の情報収集をもとに関わる) 継続ケースとして、妊娠後期から産後 1 か月までの母児を 1 組受け持つ。 2) 臨床指導者に保健指導計画を報告し、ケースの面会及び指導を行う。 3) 指導は、教員または臨床指導者立会いのもと実施する。健康診査および保健指導を展開する。 4) 妊婦・胎児の健康状態については事前に情報収集する。 5) 保健指導案及び健康診査については、教員や実習指導者から事前・事後ともに速やかに助言・評価を受ける。提出時期や提出方法については担当教員および実習指導者と連絡・調整をする。 6) 妊娠後期では、産科外来にて診察の一部実施、介助、保健指導を行う。健診終了後は記録のまとめを行う。 2. 分娩期/継続ケース実習：分娩経過の診断を行い、対象者に必要なケアと分娩介助の実施を行う。 ※ 受持ち事例が帝王切開になった場合は帝王切開前後のケアを指導者と共に行う。産科手術の介補、新生児気道確保、異常発生時の判断や対応について学習しておく。 産褥期/継続ケース実習：産褥期の母児の健康診査とケアを実施し、保健指導を行う。 1) 母子訪問時、母児の健康診査を行い、母子とその家族の発達課題にあわせた援助を行う。 2) 産後 2 週間健診時、生後 1 カ月健診時の計画を立案し、施設の指導者の指導をうける。健康診査及び保健指導を実施する。 3) 継続ケースとの人間関係を通して、助産師の役割・責任・可能性について考察を深める。 3. 受け持ち選定時の留意事項 1) 継続ケースは、妊娠後期から産後 1 カ月まで継続して受け持つことが可能な妊婦を継続事例として 1 名決定する（原則として正期産で正常な分娩経過が見込まれる初産婦を対象とする）。 2) 選定に際しては医療施設の指導者の指示に従う。 3) 感染症（HBV, HCV, HIV, MRSA）を有する対象者は原則として対象から除外する。 ※ATL, GBS, クラミジアは受け持つ場合がある。 4. 実習内容/継続ケース実習 妊娠期：受持ち決定後の妊婦健診と保健指導 分娩期：分娩第 1 期（入院時）から分娩第 4 期まで 産褥・新生児期：入院期間中の診断とケア 産後 2 週間健診、1 カ月健診（外来）、家庭訪問（1 カ月健診前に実施）等 5. その他 1) 母子健康手帳は指導者の指示に従う。出生証明書の記録はしない。但し、記載内容は確認をする。 2) 妊婦保健指導および分娩介助の自己評価はできる限り当日行い、指導者評価を受ける。
	5. テキスト・参考文献 助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ，医学書院 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期，医学書院 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期・産褥期，医学書院 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児期・乳幼児期，医学書院 中根直子監修，新訂第 2 版 写真でわかる助産技術アドバンス [Web 動画付]，インターメディカ THE 分娩，メディカ出版 病気が見える 10「産科」，医学書院 プリンシプル産婦人科学 2 産科編，メディカルビュー社

実践マタニティ診断第5版, 医学書院 産婦人科診療ガイドライン 2023 産科編, 日本産婦人科学会 *この他の参考図書は、随時紹介する。	
6. 準備学習	
授業の計画と内容に沿って、予習をしておくこと。	
7. 成績評価の方法	
記録物（日々の助産診断、継続ケースサマリー等、提出期限）	30 点
活動状況（実習への参画度、継続ケース保健指導、実習態度）	60 点
口頭試問(振り返り)	10 点
合計	100 点
生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
前期の講義を履修し単位取得していること。 「産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学」の一部を受講していること。	
9. その他	
進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい	

授業コード	科目名	助産学実習Ⅱ（分娩・産褥・新生児期） Midwifery Practicum II (During Labor/ Postpartum Woman /Neonatal)			担当教員	松井博子、長嶺絵里子、 吉田麻耶
助 118					E-mail	h.matsui@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
6	1	通年	6	研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
分娩期実習では、沖縄県内の産科施設において正常分娩を中心としたローリスク産婦の出産に立会う。分娩期においては、分娩第 1 期～4 期まで助産過程の展開をもとに系統的に助産ケアを実践し、1 例の継続事例を含む 10 例程度の分娩介助を行う。また、産婦との分娩の想起（バースレビュー）を通し、双方にとっての振り返りの意義を学ぶ。さらに、異常分娩時における医師との連携・協働および産婦と家族への精神的支援等、助産師の役割やケアの実践を学ぶ。産褥・新生児期においては、分娩を介助した母子の入院中から産褥期まで継続して受け持ち、ケースの産褥・新生児期の経過に合わせて必要な保健指導ならびに助産ケアを実践する。本授業は臨地実習である。助産師として実務経験のある教員が担当する。						
2. 到達目標						
1) 助産診断技術ならびに助産過程をもとに、分娩徴候および分娩開始・分娩進行を判断できる。 2) 分娩経過をアセスメントし、正常分娩の介助ができる。 3) 安全かつ産婦の満足度を高める助産ケアが実施できる。 4) 助産実践における P D C A サイクルを意識して自己の関わりを振り返ることができる。 5) 分娩経過ならびに産後の経過をふまえ、適切な助産過程をもとに保健指導を含めた産褥・新生児期の助産ケアが実施できる。 6) 分娩期における異常時の助産師と医師との連携を理解する。 7) ケースの個別性をふまえた母乳育児支援に必要な知識・技術を修得する。						
3. ディプロマポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 <倫理観、態度> (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 <専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力> (DP2) 分娩期の女性におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
1) 合併症のない正常な妊娠経過の産婦を、分娩第 1 期から受け持ち分娩介助を行う。分娩開始（誘発分娩含む）～分娩後 2 時間値までの産婦・新生児のケアまで実施して 1 例とする。ただし、分娩第 1 期から担当していた産婦が、結果的に吸引または鉗子分娩になった場合に、1 例の介助とするか否かは、その都度状況に応じて判断することとする。						

2) 担当した産婦の分娩経過において、助産診断をもとに分娩経過を予測し、母児とその家族の心理・社会的側面に関するアセスメントを加え、正常な分娩経過の為に必要な助産ケアを実践する。 3) 産婦のバースプランを考慮し、対象にとって“安全で満足のいく出産“を支援する態度を養う。また、介助した産婦の入院中に分娩の想起（バースレビュー）を実施し、肯定的出産体験と児への愛着形成を支援するとともに、“安全で満足のいく妊娠・出産“について考察する。 4) 分娩の1例1例を振り返り、自己の関わりや助産実践について内省し知識・技術を積み重ね、助産観を深める機会とする。 5) 分娩時の児受け介助の実施、間接介助の見学、帝王切開や急速遂娩、産科出血時の対応について助産師と医師との連携を学び、周産期における助産師の役割について理解を深める。 6) 以下の点を主軸に分娩期から継続して産褥・新生児期の母子への支援を行う。 ① 母親の進行性変化、退行性変化の促進 ② 新生児の胎外生活適応ならびに生理的变化の正常化 ③ 母乳育児の確立ならびに母子の愛着形成、親役割獲得への支援 ④ 産後の育児不安、マタニティブルーの軽減 7) 母子の個別性やその時々状況に応じた母乳育児支援の実際を見学および一部実施する。 8) 分娩介助を行った6例以上を産褥・新生児事例として入院期間中を受け持つ。受け持った母子については、退院まで助産過程（保健指導を含む保健指導案の作成）を展開する。	
5. テキスト・参考文献	
我部山キヨ子編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ，医学書院 我部山キヨ子編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ(2)分娩期・産褥期，医学書院 石井邦子編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ(3)新生児期・乳幼児期，医学書院 日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2023，日本産科婦人科学会 日本助産診断実践学会：マタニティ診断ガイドブック第7版，医学書院 青木康子編：実践マタニティ診断第6版，医学書院 武谷雄二：プリンシプル産科婦人科学2産科編，第3版，メディカルビュー 北川眞理子編：今日の助産，改訂第4版，南江堂 中根直子他：写真でわかる助産技術アドバンス，新訂第2版，インターメディカ 石川紀子他：THE 分娩ビジュアルで学ぶ 生理学・助産診断・分娩介助のすべて，メディカ出版 村上明美編：DVD で学ぶ仰臥位分娩介助技術 熟練の技を求めて，医歯薬出版株式会社 医療情報科学研究所編：病気がみえる産科第4版，MEDIC MEDIA 岩田塔子：体位別フリースタイル分娩介助法，メディカ出版 竹田省，高橋眞理編：CG 動画でわかる分娩のしくみと介助法，メディカルビュー 進純朗：分娩介助学，第2版，医学書院	
6. 準備学習	
助産師としての成長の土台となる基礎的な助産技術を身につける為、分娩介助の振り返りを毎回実施して目標を設定し、能動的な学修態度が必要となります。十分に予習・復習して臨んで下さい。	
7. 成績評価の方法	
記録物（日々の助産診断等、中間・最終レポート、提出期限）	30 点
活動状況（実習態度、実習へのコミットメント）	60 点
口頭試問（振り返り）	10 点

合計	100 点
生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
「助産診断・技術学（妊娠期、分娩期、産褥・新生児・育児期）」「分娩期助産演習」を履修していること。	
9. その他	
授業計画は、講義の進行状況に応じて変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。	

授業コード	科目名	助産学実習Ⅲ（NICU） Midwifery Practicum Ⅲ（NICU）			担当教員	松井博子、長嶺絵里子、 吉田麻耶
助 119					E-mail	h.matsui@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	後期	6	研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
ハイリスク新生児とその家族を対象に、助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な理論・知識、技術、態度を学ぶ。また、ハイリスク新生児とその家族を支援する専門職として、地域社会や医療機関において、助産実践と保健・医療・福祉との連携の在り方や協働に向けた調整と管理を行うための方法と実際を理解する。本授業は臨地実習である。助産師としての実務経験のある教員が担当する。						
2. 到達目標						
1) ハイリスク児の身体的・心理社会的な成長・発達の特徴や病態を理解する。 2) 母親の妊娠経過や分娩経過と出生時の状態、および出生後の経過と治療を関連付けて理解する。 3) ハイリスク児の特性や個別性を考慮したケアを立案し、指導のもと一部実施その結果を評価できる。 4) NICU の物的・人的環境について理解し、NICU におけるケアの特殊性について理解する。 5) ハイリスク児と母親への母乳育児支援の実際を学び、その意義を理解する。 6) ハイリスク児をもつ親や家族を全人的に捉え、施設で行われているケアの実際を通して、family centered care（FCC）の概念を理解する。 7) ハイリスク児とその家族を支援するために、保健・医療・福祉の専門職との協働の重要性を認識し看護職（助産師）の役割について考察できる。						
3. ディプロマポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 ＜倫理観、態度＞ （DP1）思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 （DP4）高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重できる能力 （DP6）助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域に貢献できる能力 （DP7）社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 ＜専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力＞ （DP2）ハイリスク児をもつ母親や家族のリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 （DP3）離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 （DP5）保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
＜実習展開＞ 1 日目（病院）：病棟オリエンテーション、受け持ち事例選定、情報収集 ・対象：重篤な合併症がなく急性期を脱して全身状態の比較的安定した児 2～4 日目（病院）：実習指導者の指導のもと助産過程の展開 ・毎朝、本日の行動計画を発表し、修正後に実習開始 ・各自の計画に沿った実習を行う。 ・ケア内容：バイタルサイン測定、全身観察、環境整備、清潔ケア、授乳、母乳育児支援、						

アタッチメント形成に向けての支援 等 ・ケアは指導者、教員と共に（または許可のもとに）実施または見学 ・母子分離による、家族の思いを考察する 5 日目（学内）：テーマカンファレンス ・事例検討（受け持ちケースの健康課題、他） ・見学したケースやケアの共有、ディスカッション	
5. テキスト・参考文献	
石井邦子編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ(3)新生児期・乳幼児期，医学書院 新生児医療連絡会：NICU マニュアル第 5 版，金原出版 宇藤裕子：はじめての NICU 看護（カラービジュアルで見てわかる！），メディカ出版 野村雅子，内田美恵子：Let's start！NICU 看護，へるす出版 ネオネイタルケア（メディカ出版）の特集や増刊号 等	
6. 準備学習	
・授業の計画と内容に沿って、上記文献を活用し予習をしておくこと。	
7. 成績評価の方法	
記録物（日々の助産診断等、最終レポート、提出期限）	30 点
活動状況(実習態度、実習へのコミットメント)	60 点
口頭試問（振り返り）	10 点
合計	100 点
・ 生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
「新生児・乳児学」「助産診断・技術学（妊娠期、分娩期、産褥・新生児・育児期）」を履修していること。	
9. その他	
・授業計画は、講義の進行状況に応じて変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。	

授業コード	科目名	助産管理学実習 Midwifery Management Practicum			担当教員	長嶺絵里子、松井博子 吉田麻耶
助 120					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	研 417	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
本実習では、助産所及び産科病棟における助産業務の管理、運営の実際を学び、自律した助産師としての姿勢や援助のあり方を学習し、望ましい援助や管理システムの構築を追求する。また、助産所及び産科病棟等で行う母子及び母子を取り巻く人々への援助の実際を学び、地域母子保健を支える実践力を身につける。本授業は臨地実習である。助産師として実務経験のある教員、指導者が担当する。						
2. 到達目標						
1) 助産所における助産業務の管理、運営と多職種と連携の実際を理解する。 2) 病院における助産業務の管理、運営と多職種と連携の実際を理解する。 3) 地域における助産師活動の実際を理解する。 4) 地域の周産期管理システムと連携方法を説明できる。 5) リスクマネジメント、危機管理のあり方が考察できる。 6) 開業助産師の高い理念や志を理解し、自律した助産師の役割が考察できる。						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
<倫理観、態度> (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP4) 産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助ができる能力 (DP6) 助産師能力としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 <専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力> (DP2) リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力。						
4. 授業計画と内容						
【実習の進め方・方法】						
1. 助産所（3 日）						
1) 助産所における助産管理・運営・経営の実際について学ぶ。 2) 開業助産師の地域での助産活動(妊婦健診・乳房管理、産後ケア等)、集団指導（育児サークル・各種学級等）及び多職種との連携などの実際について学ぶ。 3) 助産所におけるリスクマネジメント、危機管理のあり方を考察する。 4) 助産所開設に向けてのプロセス（関係する法律、届け出方法、施設の理念・方針、組織、業務体制、安全・災害対策、経費バランスシート）の実際を学ぶ。 5) 開業助産師の高い理念や志を理解し、自律した助産師の役割を考察する。						
2. 病院（2 日）						

1) 病院における組織を把握し、助産業務管理の実際が理解できる。 (1) 施設概要（病院の組織、地域連携、産科病棟、産科外来、NICU 等）を把握する。 (2) 助産業務管理及び、周産期管理システムの実際について（主に、師長の役割） (3) 看護チームの連携の実際について（主にリーダーの役割） 2) 看護チームの連携（師長業務、リーダー業務）を後追い実習し、業務管理の実際を学ぶ 3) 産科病棟におけるリスクマネジメント、危機管理のあり方を考察する。 ※助産業務管理：医療事故、感染対策・安全管理、地域との連携、書類管理、財務管理、業務質管理等 ※周産期管理システム：新生児集中治療室 母体搬送システム ※各実習施設に出向き、目標達成のために自ら進んで実習に取り組む。	
5. テキスト・参考文献	
・助産学講座 1 基礎助産学 1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 ・助産学講座 10 助産管理 我部山キヨ子編集 医学書院 ・「助産業務ガイドライン」 日本助産師会 ・「産婦人科診療ガイドライン」日本産婦人科学会／日本産婦人科医会 ・「助産業務要覧第 2 版基礎編・実践編」日本看護協会出版会 この他の参考図書は、随時紹介する。	
6. 準備学習	
・各実習場所における自己の到達目標は、事前オリエンテーション時に担当教員の助言のもと準備をする。 ・授業の計画と内容に沿って、予習をしておくこと。	
7. 成績評価の方法	
記録物（日々の行動計画等、最終レポート、提出期限）	50 点
活動状況(実習態度、実習へのコミットメント)	50 点
合計	100 点
※生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
前期科目と助産学実習Ⅰ、Ⅱを履修していること。	
9. その他	
特になし	

授業コード	科目名	母子ケアリング実習（僻地・離島） Maternal and Child Caring Practicum in Remote Islands and Isolated Areas Practicum			担当教員	長嶺絵里子、松井博子 吉田麻耶
助 121					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	後期	6	研 417	月曜日・金曜日：5 限目	
1. 授業の概要						
実習を通して、沖縄の歴史や文化を継承しながら生活する人、地域の絆やケアリング文化を理解する。沖縄の僻地・離島の地域特性と人々のヘルスニーズを踏まえ、妊産褥婦や女性とその家族の健康支援体制、関係機関との連携・協働体制、母子保健・福祉・医療・看護活動を学習する。また、子育て家庭を支える福祉に関する施策や社会資源を理解するとともに、地域の保育や子育て支援に関する社会資源の整備状況等を理解する。 助産師の役割は何かを学び、今後の助産のあり方や助産師活動の実際の理解を深める。北部の助産院、市町村における母子支援事業、産後ケア事業の展開を理解する。本授業は、講義・演習を組み合わせ実施する。実務経験のある教員、指導者が担当する。						
2. 到達目標						
1) 僻地・離島の地理的、社会的環境について理解できる。						
2) 僻地・離島で生活する人々の健康ニーズ、母子保健の現状課題を述べることができる。						
3) 地域診断を行い実習市町村の地域特性を踏まえて、切れ目ない母子支援を理解することができる。						
4) 地域の特性を踏まえて、健康支援に向けた母子保健活動、母子保健事業について理解できる。						
5) 僻地・離島における関連諸機関との連携を知り、看護専門職が果たす役割について理解できる						
6) 地域社会で生活する母子を対象とした様々な助産活動を学習し、対象のニーズに即した助産師の役割・業務を説明できる。						
7) 僻地・離島において、母子支援事業、産後ケア事業の展開を理解する。						
8) 福祉の現状と子育て家庭と家庭生活を取り巻く社会的状況について述べることができる。						
3. ディプロマ・ポリシー(DP)との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。						
〈倫理観、態度〉						
(DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力						
(DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力						
(DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力。						
〈専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力〉						
(DP2) 性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力						
(DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力						
(DP4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力						
(DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
実習展開						
1-2 日目：北部地区助産院実習(やんばる希望ヶ丘助産院)						

実習オリエンテーション、助産院の特徴、受け持ち対象者選定、情報収集 北部における妊産婦支援体制、島嶼僻地の妊産婦支援の現状(学生は、2名で1日実習を行う) 妊婦健診を利用する妊産婦や産後健診、産前産後サポート事業(アウトリーチ、デイサービス、宿泊型)を利用する産後4か月ごろまでの母親、乳児への支援を行う。 3-4日目：伊平屋村：生活する人々の健康ニーズ理解、母子保健活動の実際、診療所見学（泊） 母子支援活動：育児クラスの企画・運営 実習のまとめ/発表（事前課題レポート提出） 5日目：北部地区：母子保健の実際（北部市町村 乳児健診見学と一部実施）	
5. テキスト・参考文献	
助産学講座1 基礎助産学 助産学概論，我部山キヨ子・武谷雄二，医学書院 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健，我部山キヨ子，医学書院 乳幼児健診マニュアル第7版、福岡地区小児学会、乳児保健委員会 *この他の参考図書は、随時紹介する。	
6. 準備学習	
「やんばる母子保健」講義で事前に地区診査の課題を再編し提出し、実習に参加する。 「健康教育技法」講義で修得した指導案作成、健康教育活動を再編し、実習に参加する。	
7. 成績評価の方法	
課題(事前・事後レポート1000字程度) 30点 事前レポート①助産院実習(産後ケア、北部地域における周産期の状況、助産師の役割等) ②伊平屋村の地域母子保健活動の現状と分析 (伊平屋村概要、出生状況、母子保健活動、保健師、助産師の役割、多職種連携について) 事後レポート：伊平屋村の実習を通しての学び 記録物(日々の行動計画等、提出期限) 20点 活動状況(実習への参画度、実習態度) 50点 合計 100点 生成AIによる情報の偽装を禁止する。生成AIが出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
前期科目を全て履修していること。	
9. その他	
・日頃から地域の特徴、母子保健に関連した取り組み、分娩施設現状、緊急時の支援体制、連携等に関心をもち積極的に情報を得るようにしましょう。 ・乳児健診実習は、土曜日に実施されることもあります。その際には、自己の健康状態に十分配慮し、実習に臨んでください。	